

CoreViewer 操作ガイド

本製品は、コアズ株式会社の圧縮エンジンの評価ソフトです。
インストール後、30日だけ起動できます。
著作権を含む使用許諾は、本製品のインストール時に表明されたものとします。

本製品の推奨スペックは、下記の通りです。

OS : Windows XP (SP2以降)

CPU: PentiumIV 1.5GHz 以上

メモリ: 512Mbyte 以上

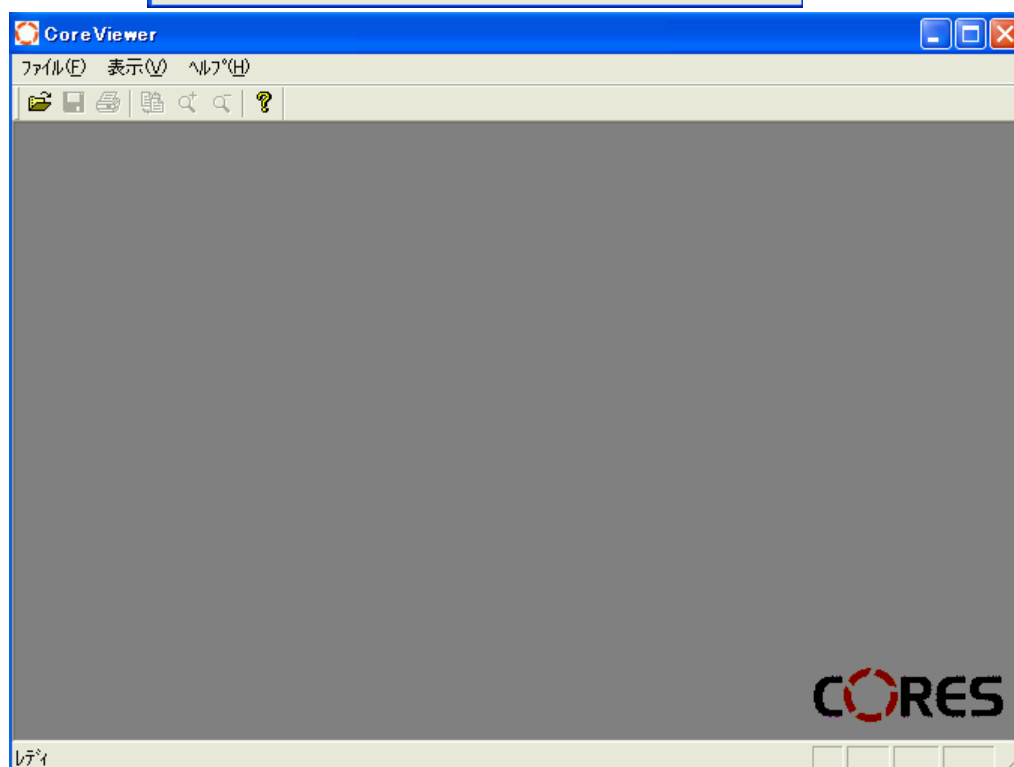
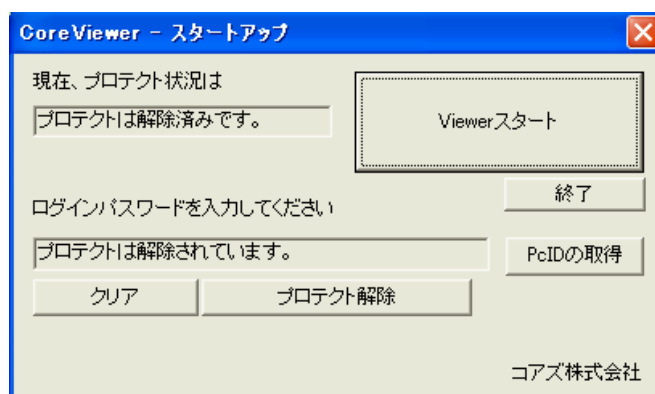
1) CoreViewer の起動

CoreViewer の起動は、デスクトップ上にあるショートカットをダブルクリックします。



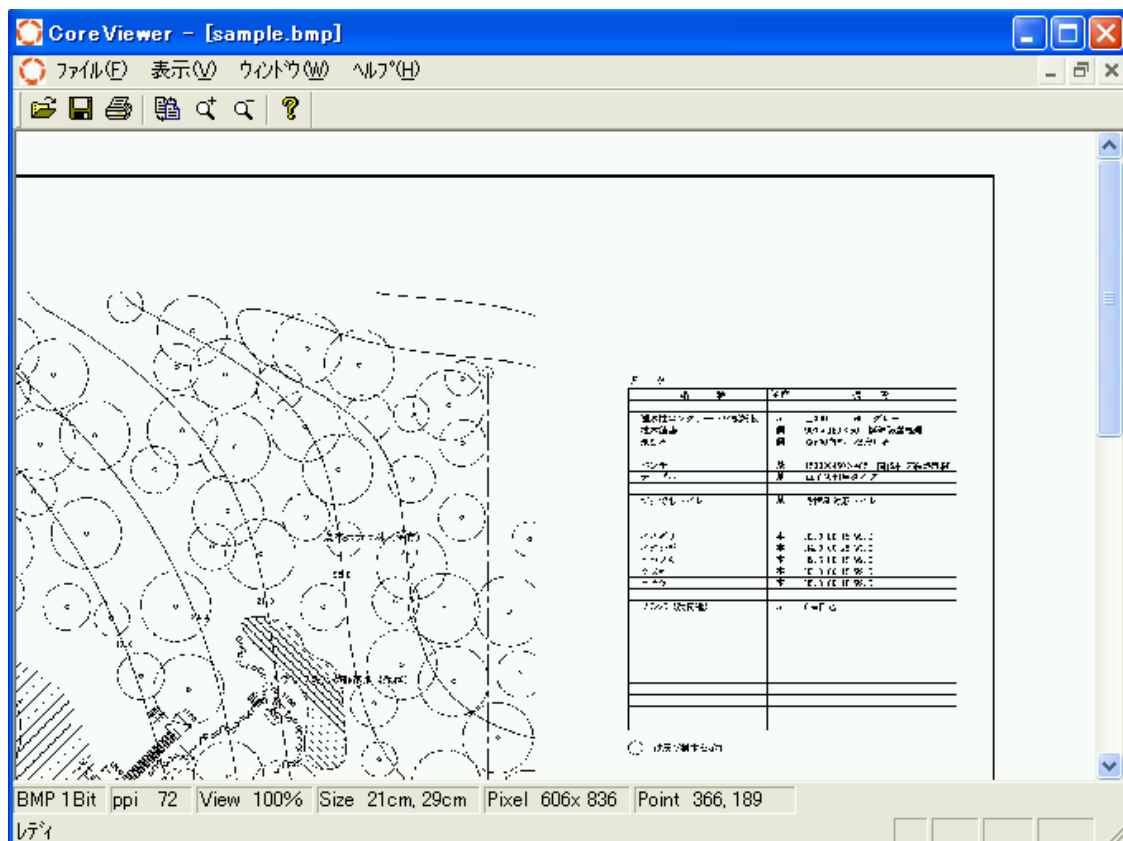
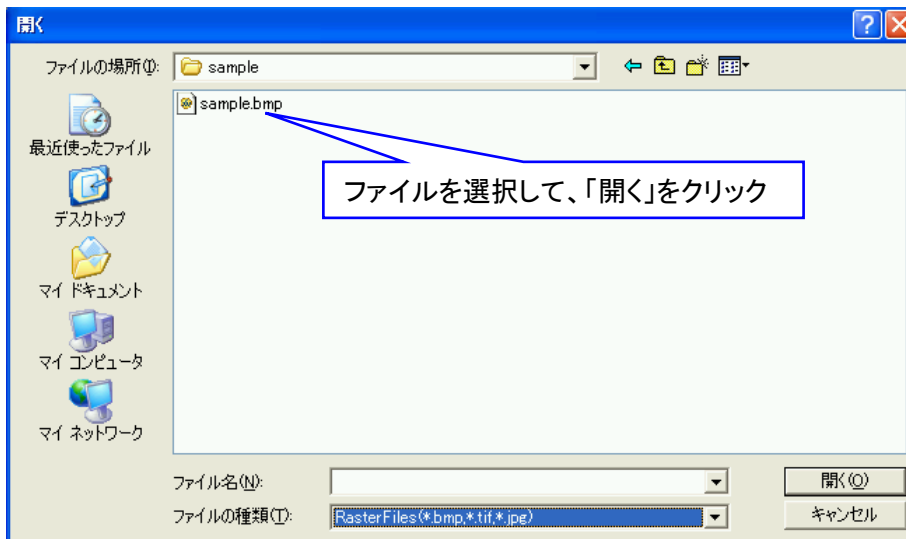
ショートカットをダブルクリック

下記図のスタートアップ画面が表示されますので、【Viewer スタート】をクリックすることでViewer が起動します。



2)ファイルのオープン

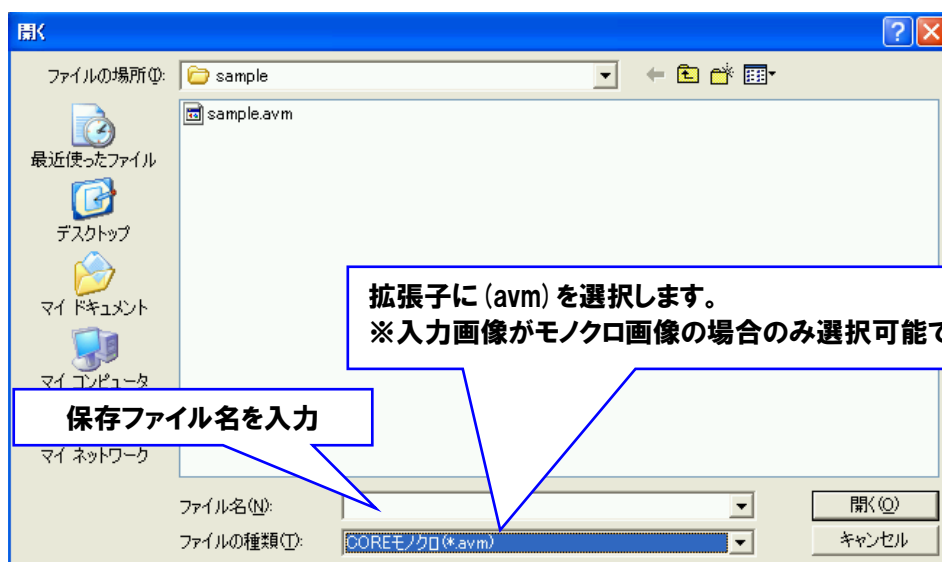
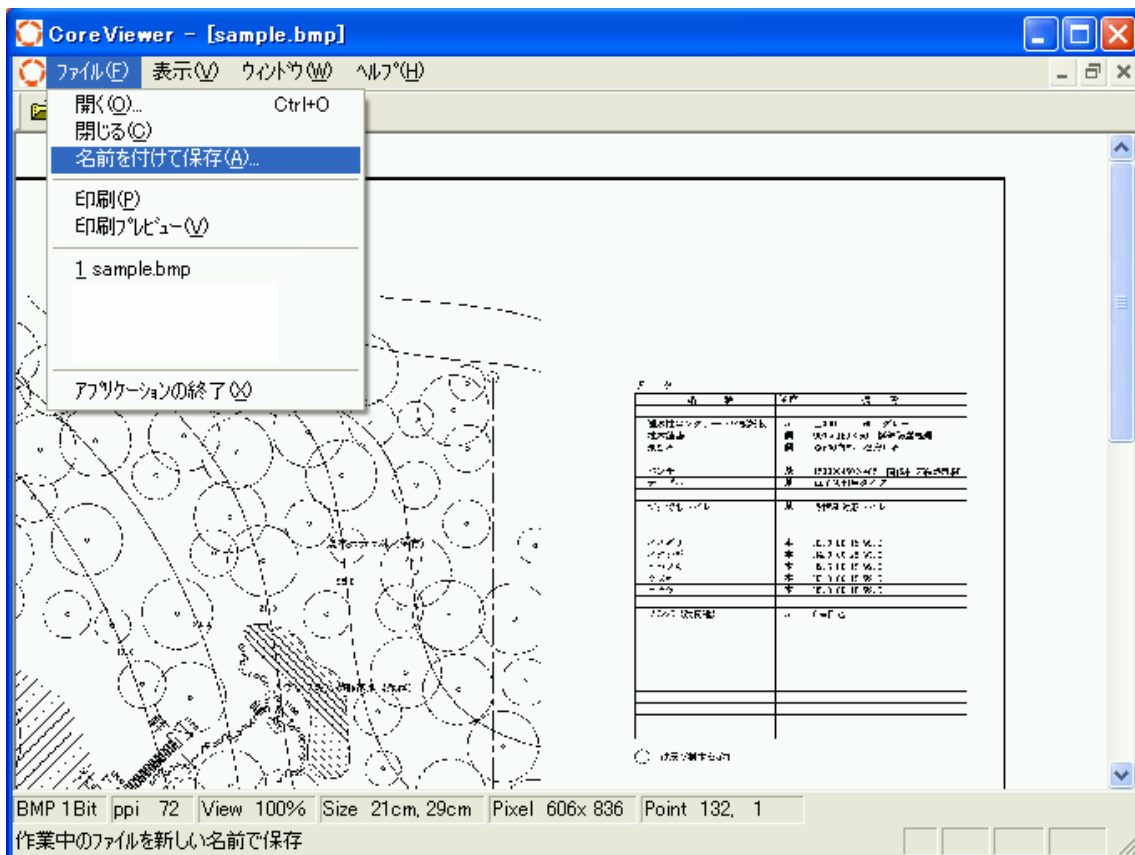
メニューバーの「ファイル」→「開く」を選択します。
(デモファイルはインストールフォルダ内にあります。)



3)ファイルの圧縮

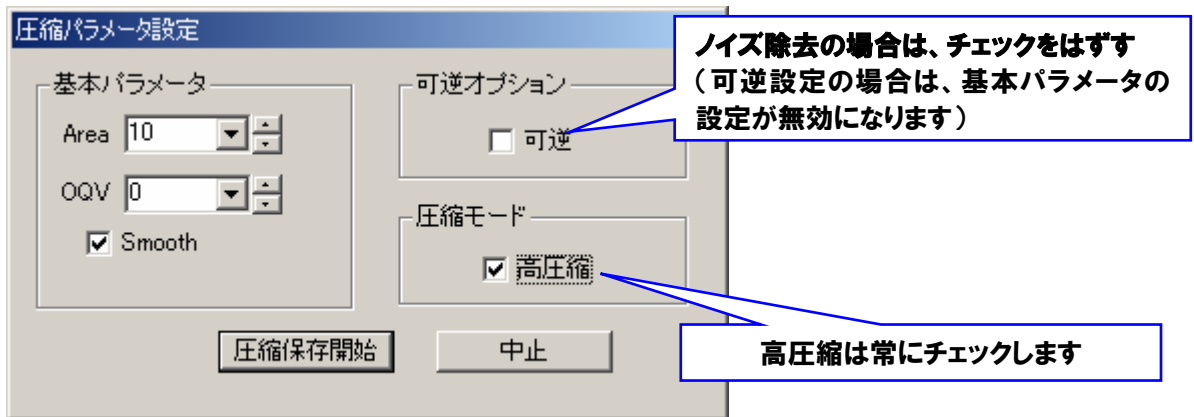
BMP, TIF ファイル等の圧縮はファイルのオープン後、メニューバーの「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択します。

ファイル名を入力後、拡張子に「avm」を選択して、「保存」をクリックします。



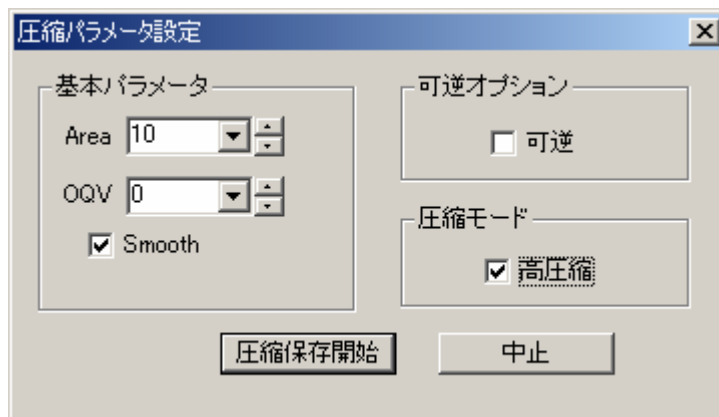
4)パラメータの設定

パラメータの設定ウィンドウが開かれるので、必要なパラメータを設定して、「OK」をクリックします。(詳細なパラメータ設定は、下部を参照して下さい。)
なお、圧縮モードは常に「高圧縮」を選択して下さい。



圧縮パラメータ設定

モノクロ画像(avm)の圧縮パラメータの設定には、Area, OQV, Smooth, Loss less and High Compress があります。デフォルトの設定は下記の通りです。



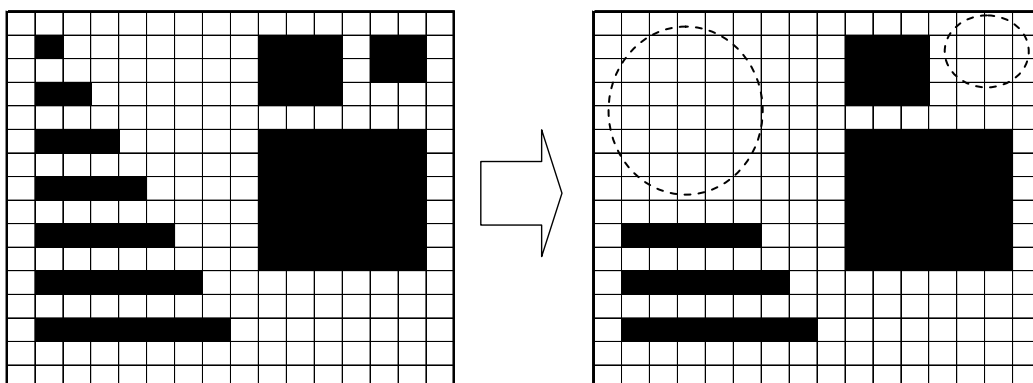
①Area (単位: ピクセル, 範囲:0 ~ ∞)

Area パラメータはノイズ除去のためのパラメータです。
本パラメータは、図形の面積値(ピクセル数)を判定し、指定されたエリアオプションの値以下の図形を破棄、穴埋めをします。エリアオプション値の設定は以下の相関を持ちます。

数値を上げていくと・・・圧縮率向上、品質低下
数値を下げていくと・・・圧縮率低下、品質向上

例1：Area パラメータ値=4の場合

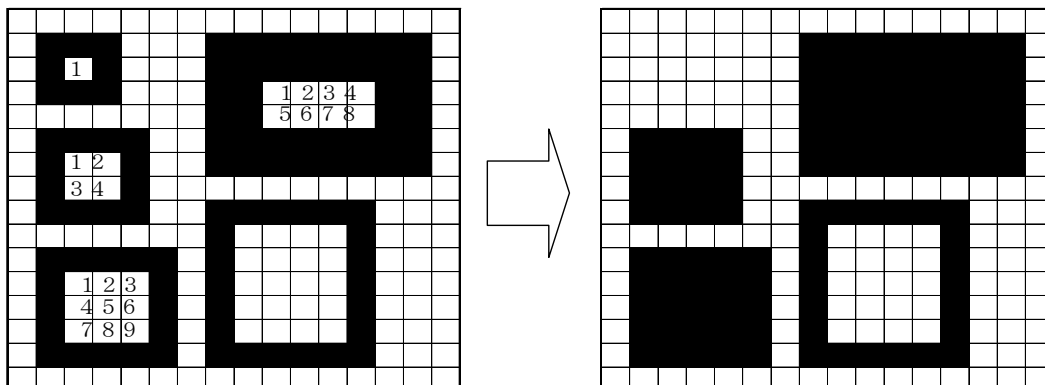
Area Option 4



※ 4ピクセル以下の領域データが削除されます。

例2：Area パラメータ=9の場合

Area Option 9



※ 9ピクセル以下の領域データの削除、穴埋めがされています。

②OQV: Outline Quantization Vector (単位: レベル, 範囲: 0-5)

このパラメータは、データの品質(解像度)を一度低下させたうえで、Area パラメータで設定した値で再圧縮します。レベル0では再圧縮しません。レベルを 1 以上に設定し保存を実行すると、設定が有効になります。

このパラメータを使用する場合はデータの解像度を低下させるため、Area パラメータをあまり大きくしないでください。Area パラメータを大きく設定した場合は、OQV パラメータを無効、もしくは最小値で設定することをお勧めします。

圧縮率と品質の相関関係は、下記のようになります。

数値を上げていくと・・・圧縮率向上、品質低下
数値を下げていくと・・・圧縮率低下、品質向上

③ Smooth (単位: オン/オフ)

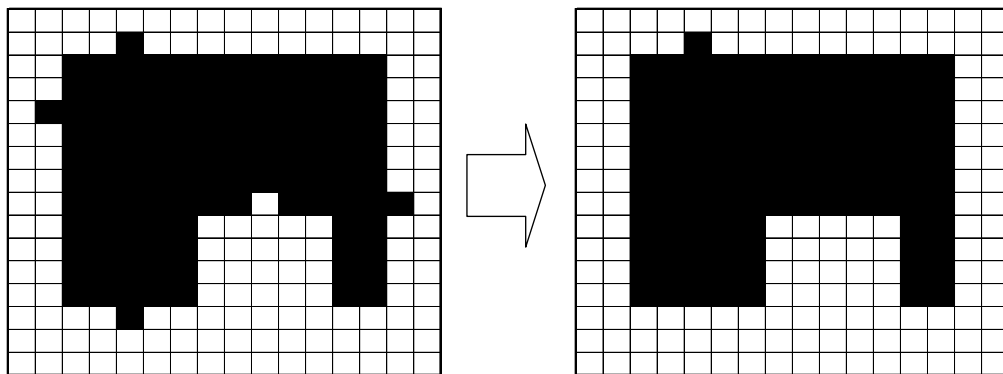
このパラメータは、スパイクノイズと呼ばれる 1 ピクセルの凹凸を削除するものです。イメージスキャナで取り込んだイメージデータは、ノイズが入りやすく、本来のデータ(紙データ)よりも劣化するのがあります。このパラメータを使用する事により、品質にあまり影響を与えずに圧縮率を向上させる事が可能になります。

通常はこのパラメータを ON で使用する事をお勧めします。

※ 対象画像の解像度が 200dpi 以下の場合には注意して下さい。
(解像度が低い場合、1 ピクセルの有無が再現時に非常に重要になる為です)

例3:

Smooth ON



※注意: スパイクノイズが図形の始点座標(ピクセル)の場合は削除しません..

④ 可逆 (単位: オン/オフ)

可逆と非可逆圧縮を選択します。

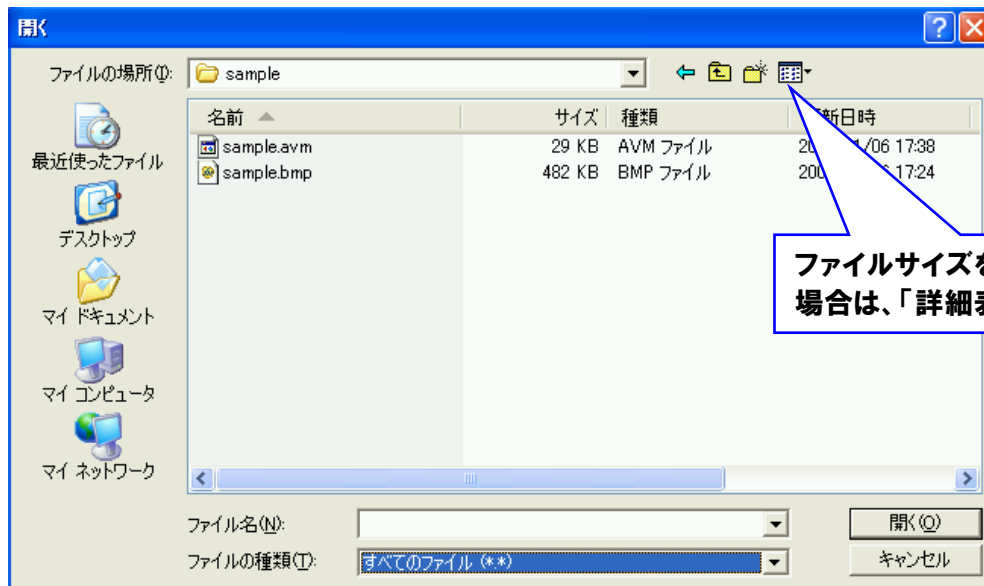
可逆をチェックすると、可逆圧縮を実行します。可逆圧縮では、オリジナル画像を損なうことなく圧縮しますが、非可逆圧縮よりも圧縮率で劣ります。なお、Area、OQV、及び Smooth のパラメータ設定は無効になります。

⑤ 高圧縮 (単位: オン/オフ)

このパラメータは、上記のパラメータで設定した圧縮ファイルに対して、さらに高圧縮処理を施します。圧縮処理工程が一つ増えるため、圧縮処理スピードがパラメータオフに比べて落ちる場合があります。復元にしても同様です。しかし、圧縮率は高くなります。

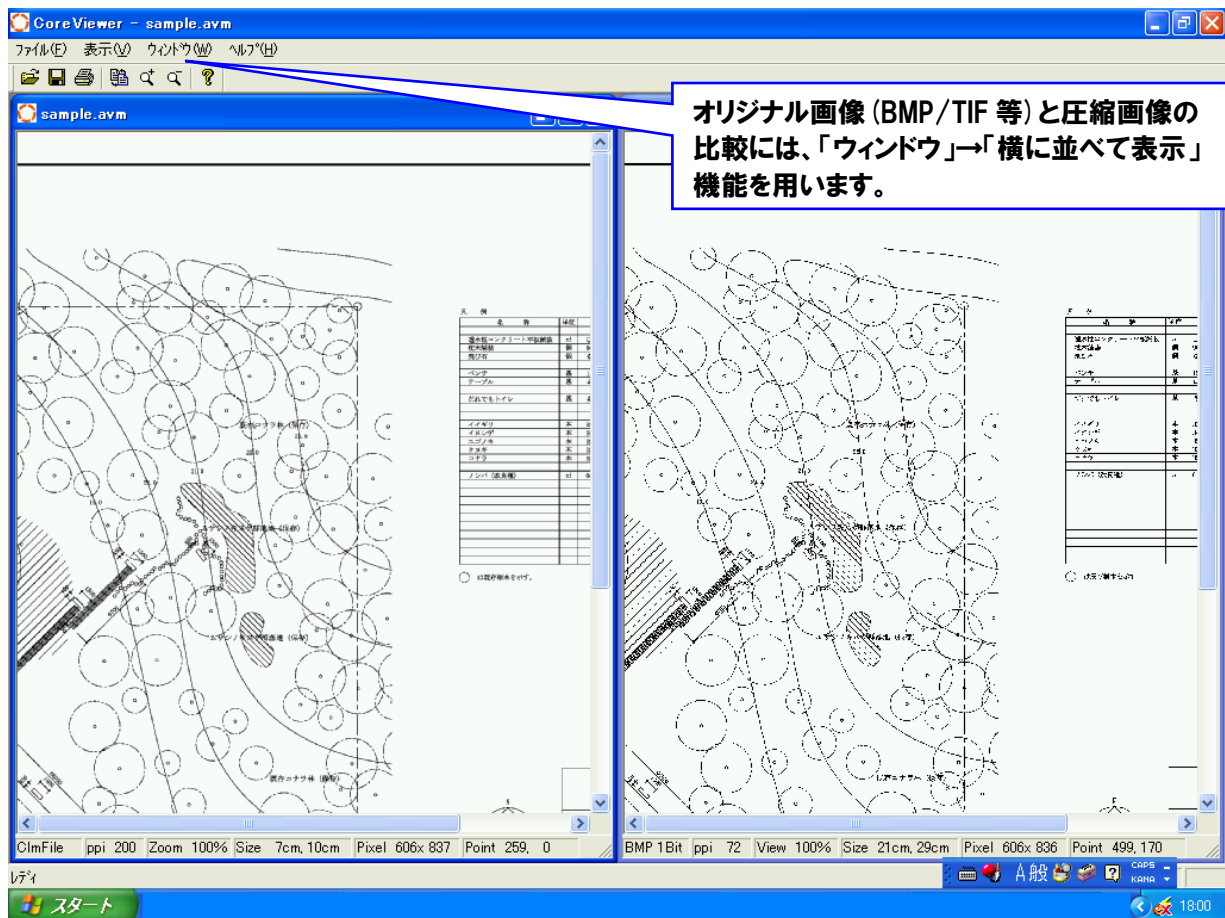
5) 圧縮後ファイルの表示

「ファイル」→「開く」で、圧縮ファイル(***.avm)を選択して開きます。



6) 2つのウィンドウの表示

2つの画像の比較には、メニューバーの「ウィンドウ」→「横に並べて表示」をクリックします。



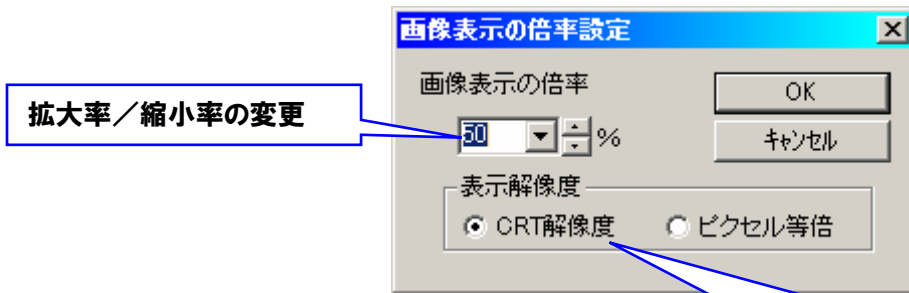
7)復元ファイルの拡大／縮小

メニューバーの「表示」→「倍率の変更」で、拡大／縮小表示を行います。
Resolutionで画面解像度を設定します。0を選択した場合は、ピクセル等倍になります。
AZoomで拡大率／縮小率を設定します。

※「縮小時多値出力」は常にチェックを入れて下さい。



8)オリジナル画像(BMP/TIF等)の拡大/縮小



下図は、2つの画像を並べて表示し、縮小表示したところ

